

## 【民法】

**問題1** 「任意代理」における「代理権濫用」について、その具体例を挙げ、どのような法的処理がなされるかについて、判例の立場を前提にして説明しなさい。その際、代理権濫用と有権代理との関係が明らかになるように留意しなさい。

**問題2** Aは、Bとの間で、Bが所有する甲建物を3年間賃借する旨の賃貸借契約を締結し、賃料の3ヶ月分の敷金をBに交付し、甲建物の引渡しを受けた。この場合について、判例の立場を前提にして下記の問いに答えなさい。なお、各問いは独立した問題である。

**問1** 3年間の賃貸借契約が円満に終了して、AがBから甲建物の引渡請求を受けた場合、Aは、Bに対し、「敷金の支払いがあるまでは、甲建物の引渡しを拒絶する」と主張することができるかについて、敷金の法的性質を示した上で、解答しなさい。

**問2** A・B間で賃貸借契約が締結された1年後に、Bは、Aに賃貸中の甲建物をCに売却し、Cは、甲建物の所有権移転登記を経由した。賃貸借契約が円満に終了し、Aが敷金返還請求権を有する場合、Aは、誰に対して、敷金の返還を請求することができるかについて、その法的根拠を示して解答しなさい。

**問3** A・B間で賃貸借契約が締結された1年後、Bは、Aに賃貸中の甲建物を、Cに売却し、Cは、その所有権移転登記を経由した。賃貸借契約が終了した後Aが退去する前に、Cは、この甲建物をDに売り渡すと共に、D名義の登記が経由されたが、C・D間では、敷金をめぐる権利義務はDが承継する旨の合意をした。Aは、誰に対して、敷金の返還を請求することができるかについて、その法的根拠を示して解答しなさい。